

平成 22 年度福島県地域づくり総合支援事業（サポート事業）
過疎・中山間地域集落等活性化枠 集落等再生計画策定事業

いわき市川前町高部地区 集落再生計画

50 年後の存続に向けて「こころの活性化」事業計画

いわき市川前町第 9 行政区（高部地区）
熊谷地理研究会
高木 亨（立正大学非常勤講師）

目 次

I	はじめに.....	3
1.	これまでの経緯	3
1)	いわき市川前町高部地区の概要.....	3
2)	大学生の力を活用した集落活性化事業の取り組み.....	3
II	高部地区集落再生計画	5
1.	計画の目標.....	5
2.	計画	5
1)	楽しみの創出（高部体験と大学生によるイベント盛り上げ隊）	5
2)	安心の創出.....	7
3)	情報の創出（PR 大作戦）	8
3.	今後の事業計画	9

I はじめに

1. これまでの経緯

1) いわき市川前町高部地区の概要

いわき市川前町高部地区は、いわき市の北東部川前町下桶売地区にある。JR 磐越東線川前駅から北へ約 5km に位置している。

旧川前村は、昭和 41（1966 年）年いわき市誕生の際に他の 13 市町村とともに合併に参加、いわき市の一部となる。合併前の昭和 38（1963）年には人口 3,636 人、694 世帯が暮らしていたが、平成 21 年には人口 1,391 人、511 世帯と大幅に減少している。全国の中山間地と同様に、少子高齢化が問題となっている。

高部地区は、2008 年現在 20 世帯 47 人が暮らしているが、30 歳以下はいない。55 歳以上の割合は約 77%、65 歳以上も約 50%と、人口構成のみを見ると、いわゆる「限界集落・準限界集落」となりつつある状況下にある。

平成 17 年 10 月以前は、磐越東線川前駅と上高部を結ぶ常磐交通の路線バスが通っていた。タクシーは川前駅前にあったが廃業しており、住民の足は自家用車のみとなっている。主な産業は林業であったが、現在は農業が主体となっているほか、多くの住民は平・小野町方面へ通勤している。



図1 いわき市川前町の位置



図2 高部地区の位置

2) 大学生の力を活用した集落活性化事業の取り組み

このような状況のなか、現状打破のきっかけとして、平成 21 年度に福島県が実施した「大学生の力を活用した集落活性化調査委託事業」に取り組むこととなった。マッチングの結果、立正大学の学生サークル熊谷地理研究会（当時、熊谷地理研究所）が集落に入ることとなり、大学生との交流がはじまった。

平成 21 年 8 月に、初めて大学生が高部集落に入り、2 泊 3 日で調査を開始、全戸への聞き取り調査とともに、住民とのワークショップを開催。高部地区の「いいところマップ」

の作成と活用、大学生との交流を柱にした、活性化案が策定された。

以後、大学生との交流を中心として様々な活動が行われている。以下にその概要をまとめる。

表1 大学生の力を活用した集落活性化事業の経過

<平成 21 年度>	
8月	大学生の力を活用した集落活性化事業による調査・ワークショップ（ひまわり会議）※テレビ取材
10月	高部集落「秋祭り」への大学生参加（お祭り行事・バーベキュー大会）
11月	県民討論会 in 会津（上記事業の報告会）への出席（集落と大学生との交流）※テレビ取材
3月	大学生による「こころの活性化」報告会（懇親会）
<平成 22 年度>	
5月	大学生による田植え体験（「高部姫」の田植え、休耕田の活用）、川前地区の運動会への大学生の参加 ※テレビ取材
8月	大学生による田の草刈体験・盆踊りの復活・ビアガーデンの開催
9月	大学生による稲刈り体験（収穫祭） ※テレビ取材
10月	高部集落「秋祭り」への大学生参加（お祭り行事・バーベキュー大会）
11月	立正大学大学祭への集落参加（「高部姫」の販売、大根販売、もちつき）※テレビ取材
12月	ひまわり会議（ワークショップ）・忘年会

※大学生との交流を通じた取り組みは、福島県の広報番組「おしえてうつくしま」で2010年8月と2011年11月、福島中央テレビのニュース番組「ゴジてれchu！」（2011年5月）にて取り上げられた。



図3 ひまわり会議の様子（2009年8月）



図4 学生の秋祭り参加（2009年10月）



図5 学生の田植え体験（2010年5月）



図3 ひまわり会議・忘年会（2010年12月）

Ⅱ 高部地区集落再生計画

1. 計画の目標

これまでの活動により得られた高部地区の魅力を活かすこと。住民が楽しく取り組めること、大学生と「細く長い交流」ができるために、「こころの活性化」をキーワードとすること。そして、現在交流している大学生が70歳代となる50年後も、高部地区が元気で交流できるようにに向けた準備をすること。これらを本計画の大きな目標とする。

<計画の目標>

- ・高部地区の魅力を活かす
- ・住民が楽しく取り組めること（こころの活性化1）
- ・大学生との「細く長い交流」に取り組むこと（こころの活性化2）
- ・50年後の存続に向けた準備

2. 計画

上記目標に向けた、取り組みとして、次の三つの「創出」を主要な取り組みとする。

- ・楽しみの創出
- ・安心の創出
- ・情報の創出

また、本計画は単年度ではなく3カ年を予定している。

1) 楽しみの創出（高部体験と大学生によるイベント盛り上げ隊）

本計画の主な取り組みとなるのが「楽しみの創出」である。「行事」「交流」「文化」を3本柱が、この取り組みの大枠となる。

①行事

行事は、これまで続いている「伝統的な行事の維持」、これまでの事業で新たに取り組んだ「新規行事の継続」、そして以前おこなわれていた「行事の復活」の三つが主な取り組みとなる。

高部地区における各種行事は、住民同士の紐帯として機能してきた。しかしながら、少子高齢化の進展とともに、縮小傾向にあった。大学生の力を活用した集落活性化事業が契機となり、以前おこなっていた行事を復活させよう、新たな行事をやってみようという機運が出てきた。こうした機運を活かし、行事を継続していくことが重要である。

お祭り等の行事は、参加もしやすく、大学生との交流には適しているといえる。参加しやすい行事から、新たな参加者を呼び込み、高部地区との交流を深めていく機会としたい。

米作り体験は、地区内の休耕田を活用することができ、さらに収穫した米を大学祭等で販売することで住民、大学生ともに盛り上がっている。休耕田対策としては、お花畑プロジェクトを実施する。夏のひまわり、秋のコスモスを地区の名物に仕立てていく。花の季節には、地区で取れた野菜などを物販し、現金収入になるよう取り組みをおこなう。こうした活動を継続的に取り組んで行く。

ひばり会の活動を各行事に取り込むことで、住民の活躍の場が広がることが期待される。また、大学生が「イベント盛り上げ隊」として参加することで、行事がよりにぎやかになり、活性化することが期待される。

表2 取り組む行事

○伝統的な行事	○新規行事	○行事の復活
例大祭（秋祭り）	米作り体験（「高部姫」）	盆踊り
<主な取り組み> ・参道整備 ・行事準備 ・大学生との交流 ・バーベキュー大会 <今後の展開と課題> ・集落出身者の参加 ・ひばり会との組み合わせ	<主な取り組み> ・休耕田活用とブランド米「高部姫」 ・地区住民の共同行事 ・大学生との交流 ・田植え、草刈、収穫を体験 ・収穫された米を大学祭等で販売 <今後の展開と課題> ・集落出身者の参加 ・費用負担	<主な取り組み> ・30年ぶり復活 ・太鼓の発見・復活 ・「川前音頭」の踊り ・大学生との交流 <今後の展開と課題> ・集落出身者の参加 ・ひばり会との組み合わせ
	ビアガーデン	ひばり会（カラオケ同好会）
	<主な取り組み> ・集会所の活用 ・盆踊りと同時開催 <今後の展開と課題> ・サーバーレンタル ・費用負担	<主な取り組み> ・忘年会でのカラオケ大会 <今後の展開と課題> ・各種行事での開催 ・カラオケ練習の復活 ・機械とソフトの更新
	休耕田の活用（ひまわり・コスモス畑）	
	<主な取り組み> ・休耕田を活用したお花畑プロジェクト ・夏のひまわり、秋のコスモスを地域の名物にする <今後の展開と課題> ・花の季節には物販予定 ・メンテナンスと費用負担	

②交流

平成21年度から2カ年にわたって取り組んできた「大学生の力を活用した集落活性化事業」は平成22年度を持って終了予定である。本地区にとって、今後も大学生との交流を柱に、地域振興を図っていくことが重要である。また、大学生との交流から派生する形で、地域外との交流が広がっていくことが期待される。

交流では大学生との交流を中心に、地区出身者で高部地区の外へ出てしまっている人々との交流（出身者との交流）を実施していきたい。この交流に活用する「高部新聞」についての詳細は、後述する。

交流の中身は、体験交流が中心の内容となる。また、「高部新聞」を活用して出身者への呼びかけをおこないながら、交流の輪を広げていく予定である。交流については、整理すると次表のようになる。

表3 取り組む交流

○大学生との交流	○出身者との交流	○体験交流
学生参加・協働 ・各種行事参加 ・体験交流への参加 ・「文化」活動への参加 ・インターネット教室講師 ・集落活性化へのアイデア	「高部新聞」の活用 ・出身者へのPR ・高部行事へのお誘い	休耕田の活用 ・米作り体験（前述） ・ひまわり畑 ・コスモス畑
川前地区運動会への参加 ・高部地区を越えた交流 ・運動会の活性化	福島県交流フェアへの参加 ・毎年12月東京で開催 ・東京で出身者との交流	宿泊体験 ・集会所の活用 ・空き家の活用 ・民泊の実施

③文化

高部地区に伝わる歴史、昔話等を発掘する。また、各家庭に伝わる習俗・行事・料理等を記録する。これらを集約し、文章化・地図化することで、高部地区の記録として残す。これら活動により、地区の魅力を住民が再発見することが期待される。この取り組みにも大学生との交流を活かしていく。

表4 取り組む文化

集落の歴史・伝承	各家庭の習俗・行事・料理
・学生による聞き取り調査 ・ワークショップによる情報収集	・学生による聞き取り調査 ・アンケート調査
・住民による文献収集 ・学生と住民による報告書作成	・学生と各家庭による報告書作成

2) 安心の創出

過疎化が進行するなかで、安心してこの地域で暮らしていくため、主として情報インフラについての取り組みをおこなっていく。本計画での取り組みは、次の2点である。

・携帯電話環境の整備要請 ・PC環境のソフト・ハード両面での整備

①携帯電話環境の整備

現在高部地区では携帯電話がほとんど通じない状況にある。このため携帯各社・行政へのアンテナ設置を要請する。

また、携帯電話開通後には、携帯電話の使い方講座を実施する予定である。

②PC環境のソフト・ハード両面での整備

過疎化が進行する高部地区において、医療過疎化や、今後予想される買い物難民化に対応するため、インターネットの活用が重要である。また家族間のメール活用など、インターネットが自由に使える環境・スキルがあれば、高部地区での生活がより快適になる。

このためのインターネット教室の開催、簡便なインターネット端末としてipadの導入、教室を開催する集会場への無線LAN環境を整備する。

また、教室の講師として、大学生の力を借りることで、大学生との交流機会を増やす。

将来的には、住民による情報発信ができるようになることを想定している。

- ・インターネット教室（大学生講師）
- ・ipad の導入（各家庭1台を想定）
- ・集会所の活用と無線LAN環境整備（プロバイダ契約）

3) 情報の創出（PR大作戦）

高部地区での取り組みを主に出身者へ伝えることで、将来的なUターンを誘引する。このために以下のような取り組みをおこなう。

- ・「高部新聞」の発行・活用
- ・いいところマップの活用
- ・福島県交流フェアの活用
- ・webの活用
- ・情報集約拠点の設置

①高部新聞の発行・活用

これまで大学生が中心となって編集・発行している「高部新聞」を、出身者へ送付し積極的にPRする。高部住民から他地域にいる家族に向けて発送することで、家族の絆を深めるとともに、出身地への意識を高めることを目的としている。

編集は当面大学生が担当し、印刷・発送等は地区住民が担当する。発行は季節ごとの年4回を予定している。

②いいところマップの活用

平成21年度の事業で作成した、高部地区のいいところを集めた「いいところマップ」を本格的に活用する。「高部に来て、住民と交流しなければわからない」地図という「いいところマップ」のコンセプトを活かしながら、マップの再構築をおこなう。

さらに、回覧板を通じた川前地区全戸配付、川前支所・公民館等での配付をおこなう。また、マップを活用した行事等は今後の課題とする。

③福島県交流フェアの活用

毎年12月に東京池袋サンシャインシティで開催される「ほっとするふくしま大交流フェア」への出店を通じて、首都圏在住の高部地区出身者との交流機会を設けていく。

出店に際しては、高部地区で取れたお米の販売などを想定している（いわき市のブースの一部での販売を想定）。

高部新聞による周知とともに、物販等で協力してくれる出身者を募る。

④webでの情報発信

高部地区の取り組みをより広く知ってもらうために、webを活用した情報発信に取り組む。当面は「熊谷地理研究会」のホームページを利用して、情報発信をしていく。高部新聞と同じ内容を掲載予定である。

⑤情報集約拠点の設置

高部地区での上記活動をおこなっていくため、空き家を活用した活動拠点を設置する。

あわせて、大学生等が高部地区での活動に参加する際の宿泊所としても利用できる施設としたい。空き家の候補があるが、賃料はじめ改修費、利用料等の検討が必要となるが、早急に設置を検討したい。

3. 今後の事業計画

事業計画を締めくくるにあたり、本計画の今後の展望を示す。

表5 年度ごとの事業展開

年度	行事・交流関係	安心・情報関係
平成23	<ul style="list-style-type: none"> ・米作り体験（春・夏・秋） ・ひまわり畑（春～夏） ・盆踊り・ビアガーデン（夏） ・ひばり会（秋・冬） ※カラオケ機械更新・ソフト更新 ・学園祭への参加（高部姫ほか販売） ・ほっとするふくしま大交流フェアへの参加（高部姫ほか販売） ・空き家利用の検討（改修） 	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯各社へのアンテナ設置依頼 ・行政への携帯アンテナ設置働きかけ ・集会所への無線 LAN 環境整備 ・ipad の導入（各世帯1台） ・インターネット教室開始（秋・冬） ・いいところマップの更新（配付） ・高部新聞の発行（年4回予定） ・web での情報発信（随時） ・活動拠点設置に向けて検討
平成24	<ul style="list-style-type: none"> ・米作り体験（春・夏・秋） ・ひまわり畑（春～夏） ・コスモス畑（夏～秋） ※ひまわり・コスモスの時期に物産を試験販売予定 ・盆踊り・ビアガーデン（夏） ・ひばり会（秋・冬） ・学園祭への参加（高部姫ほか販売） ・ほっとするふくしま大交流フェアへの参加（高部姫ほか販売） ・空き家（活動拠点）での宿泊開始 ・大学生との交流の輪を拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット教室（春・夏・秋・冬） ・インターネットを活用した事業検討 ・携帯各社へのアンテナ設置依頼 ・行政への携帯アンテナ設置働きかけ ※携帯電話アンテナ設置後は、教室開催予定 ・高部新聞の発行（年4回予定） ・web での情報発信（随時） ・空き家を活用した活動拠点設置
平成25	<ul style="list-style-type: none"> ・米作り体験（春・夏・秋） ・ひまわり畑（春～夏） ・コスモス畑（夏～秋） ※ひまわり・コスモスの時期に物産を販売予定 ・盆踊り・ビアガーデン（夏） ・ひばり会（秋・冬） ・学園祭への参加（高部姫ほか販売） ・ほっとするふくしま大交流フェアへの参加（高部姫ほか販売） ・活動拠点での宿泊 ・体験交流を一般にも拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話メール教室開催（春・夏） ・活動拠点での情報発信開始 ・高部新聞の発行（地区主体へ） ・いいところマップの更新（地区主体で） ・web での情報発信（地区主体へ） ・ネット環境を利用した事業開始予定

本計画は、単年度ではなく3カ年とした。大学生との交流を軸に、継続することで交流の輪が広がっていくことに重きを置いた。このため複数年の活動期間が必要である。

地区住民の高齢化が進むとともに、事業の継続が困難になることが予想される。しかしながら、出身者への参加を呼びかけるとともに、大学生のなかから新たな担い手が生まれてくる可能性もある。こうした可能性を広げる意味でも複数年の活動期間が必要とされている。